

のんびり散策。
美里町を思いっきり満喫してみよう！

美里町ガイドマップ

A

れんしょうどう
蓮生堂 B-2

町の北西部を流れる小山川西岸の熊谷公会堂の裏手にあり、「熊谷次郎直実公の遺骨が埋葬されている」と伝えられています。安永元年(1772)に書かれた「武乾記」には「下見玉村之内熊谷に熊谷次郎直実の墓あり・・・」とあり、真偽は不明ですが、直実公の墓が下見玉の熊谷の地にあると伝えられていたことがわかります。



B

鎌倉街道 D-2



鎌倉時代に幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網で、美里町にも鎌倉から群馬県へ抜ける経路があります。これらを整備し、鎌倉から関東諸国、あるいは遠く信濃、越後、陸奥方面に通じた主要な道であったと言われています。町を東西に横断しており、街道沿いに大道北、海道南、市場など街道にまつわる古い地名が残されています。また、大仏地区から広木地区の集落に至る道と旧県道との交差点から、旧見玉境の一里塚遺跡に至る道筋については、2つのルートが伝承として残されています。

C

てらどかし
寺戸の檜 D-1 町指定文化財



町指定文化財 あらいもっこく B-3

美里町阿那志字新井の薬師堂の墓地にあります。幹の太さは直径2.6メートル、高さは約12メートルで、樹齢は約700~800年といわれています。



B-3 彼岸花 (志戸川沿い)

志戸川や天神川では、9月下旬から10月中旬になると彼岸花(曼珠沙華)が群生し、河岸を真っ赤に染め上げます。



C-3

明治時代、富岡製糸場の初代場長の尾高惇忠が、秋も養蚕をするように奨励しました。これを秋蚕といい、松久村に住む深沢豊次郎は、率先して取り組みました。その後、日本全国で春・夏・秋の養蚕が行われるようになり、日本の蚕糸業の発展に寄与しました。

